

経済情報学科の入学者の受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育の理念・目的と求める学生像

経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。

- ・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人
- ・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人
- ・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原理を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

経済情報学科の教育課程に適応するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。

（知識・技能）

- ①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報 3 分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能」

（思考力・判断力・表現力）

- ②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる

②-a. 「高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能をふまえた思考力・判断力」

②-b. 「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」

②-c. 「専門分野（経済・経営・情報）に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」

（主体性・多様性・協働性）

- ③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」

入学後の学びに必要な能力や適性等と入学者選抜における評価との対応

学力の3要素					知識・技能	思考力・判断力・表現力			主体性・多様性・協働性
入学後の学びに必要な能力や適性等					①	②-a	②-b	②-c	③
入試区分、 検査等の内容（配点）	学校推薦型選抜	一般推薦	調査書「全体の学習成績の状況」（出願要件）		○	○			
			基礎学力検査（英語）（50点）				○		
			小論文（50点）			○		○	
			面接（40点）			○			○
			調査書「数学」または「英語」の学習成績の状況（5点）			○	○		
			資格取得・検定等（25点）						○
		特別推薦A、B	調査書「全体の学習成績の状況」（出願要件）		○	○			
			小論文（100点）			○		○	
			面接（40点）			○			○
			調査書「数学」または「英語」の学習成績の状況（5点）			○	○		
			資格取得・検定等（25点）						○
	一般選抜	前期	共通テスト（300点）		○	○			
			教科・科目に係る個別テスト（数学、英語）（400点）			○	○	○	
			調査書「数学」または「英語」の学習成績の状況（25点）			○	○		
			資格取得・検定等（25点）						○
		後期A、B	共通テスト（300点）		○	○			
			教科・科目に係る個別テスト（数学または英語）（200点）			○	○	○	
			調査書「数学」または「英語」の学習成績の状況（25点）			○	○		
			資格取得・検定等（25点）						○
	留学生選抜 私費外国人	外国において、学校教育における12年の課程を修了またはこれに準ずるもの（出願要件）				○	○		
		日本留学試験（日本語、総合科目、数学）（50点）		○					
		日本留学試験（日本語（記述））（10点）				○	○		
		小論文（50点）				○		○	
		面接（50点）				○		○	○

入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み

入学までに「基礎学力である高等学校等で学ぶ幅広い教科・科目の知識・技能」を身につけていることが必要です。特に、問題分析力につながる「基礎的な数学力」や、情報収集やコミュニケーションにつながる「英語力」を身につけていることを重視しています。また、経済・経営・情報への関心を持っていることを評価しています。そのため、これらの話題について日頃から調べたり、関連する資格取得・検定に挑戦したりしていることなどが望まれます。